

令和4(2022)年「正覚寺報」5月第2号

お知らせ

子供たちが主体の五月二十一日予定の正覚寺の降誕会(ごうたんえ)実施の是非は、五月度佛壮お聴聞の会で念の為の最終確認をして戴きましたところ、結果的に、今年も中止の運びとなっていました。

ついては、合同実施を予定しておりました「佛婦例会」は、5月16日(月)に変更実施する運びとなりましたのでご連絡致します。

記

5月16日(月)19時半 佛婦 例会

リスクと機会への取り組みの問題

4月度のお聴聞の会で、今年の「降誕会」は何とか実施しようということになりましたので、仏教壮年会では小学校にも打診して戴き大津市の他の地域の様子も調査の上で実施の方向で図って戴きました。

ところが、5月度のお聴聞の会での念の為の最終確認の結果、今年も中止の運びとなっていました。

新任総代を含めた会合であり、コロナへの感染予防と寺院活動の維持・活性化とは見かけ上互いに相容れませんので、降誕会の実施に際しては寺院活動を担う総代会の方針を優先したからです。

但し、既に降誕会の中止は、三年に及んだこともあり、新総代会には、今後に向けて実施か中止かの判断の基準を明確にするようお願いしました。

世の中の企業はコロナのリスク対応のみならず顧客の要望に応えて100%の製品供給を目指していらっしゃる。感染者は自宅待機の要請に応えていらっしゃる。

お寺の場合は、浄土真宗のお法りが何とか

して伝わって戴きたいという如来様の願いが元になっていきますので、人数制限して一件落着実施すれば事足りるものではなく、お一人でも多くの方に御法座にご縁を結んで戴くというのが企画の本質であります。

正覚寺の御法座では、第五波蔓延に当たった昨年の歓喜会こそ中止は致し方ありませんでしたが、既にピークを過ぎた秋の彼岸会の中止は意味のないことになりました。

会場でのアルコール手指消毒、マスク着用、定時間毎の換気は実施済みであり、厳格化を云うなら感染者には参加を控えて戴くこと、その上を云うならウイルス除去のための空気清浄装置の導入が挙げられます。如来様のお育てに与る以上、主催者側は心を一つにして取組んで戴くことが大切です。

お正信偈には「如来様から本願力回向して下さったお名号は、本願の名号であり、衆生がお救いに与って行く如来様の正定業であります。」と謳われております。

第十七願に誓われた通りに、お釈迦様が明らかにして下さった仏説無量寿経の阿弥陀如来のご本願の御法りのお育てに会い、その上は「さあ、称えてご覧」とのお勧めに習って「南無阿弥陀仏」と讃仰のお念仏を称えるとき、直ちに、お浄土から届いて下さる「本願招喚の勅命」こそは、「本願の名号が衆生の上で働いて下さる方便法身の法のはたらき」のお姿にほかありません。

今生におりながら如来さまのお育てに会い、南無阿弥陀仏と称名実践するとき如来様のお喚び声に喚び覚まされます。

皆様、如来様が衆生を喚び覚まして下さる仰せに出会い、「まことよのう、まことまこと」とお念仏申して参りましょう。合掌。